



をし、その一つとして職員の人件費の見直しを行った。これだけで十分かと言われれば必ずしもそうではないが、地域の中で地域計画を立てていただき、長期的な視点の中で地域づくりを取り組んでいただいている。ここ2年はコロナの影響で、人を集める企画をするのが大変だったという話も伺っている。事務局の方も相当苦労されたと思うが、どういうことをしていけば良いか、話し合うこと自体が、一つの地域づくりの力を高めていくことにつながるのではないかと思っている。今のような話も、我々に届けてもらいつつ、地域の中でもどのようにしていけば良いかということ、引き続き話し合っただけであればと思っている。

(町長) コミュニティーセンターは、もともと地区公民館で、教育委員会の部門に組み込まれており、いろいろな縛りがあった。町の方々と話し合った結果、管理を変えて行くという結論に至り、コミュニティーセンターとして管理委託という一つの方法ができた。コミュニティーセンターへは何に使っても良いお金を180万円支援している。地域の活力づくりに何をしていくかということに時間をかけながら、その地域の特徴に合わせたものを議論していただきたい。資金的に足りない場合は、必ず実現するとは言えないが、相談していただければと思う。何度も話し合っ、実際にやってみると言うことが大切だと思う。

- Q. 地域づくりの核となる、コミュニティーセンターの事務局のモチベーションを上げていくため、正職員並みの賃金ベースにする必要があると思う。運営力の強化とあるが、具体的にどのようなことを考えているのかお聞きしたい。

農林関係では、担い手がないため、優良農地が荒廃農地になる。再生協議会と協議しながら、基盤整備し、行政が借り上げて担い手に貸し出すなど、思い切った施策が必要ではないかと思うが、どう考えているか。

- A. (企画政策課長) 指定管理料として、人件費と施設の管理費をまとめて協議会にお支払いしている。賃金については、以前の地区公民館、これまでコミュニティーセンターとして活動してきた状況を踏まえて、地域協議会の連絡協議会の中でも話し合いをし、決めたものになる。なお、各地域協議会である程度融通は利くと考え。今後については意見をいただきながら、検討していきたい。

(企画政策課長) 運営力強化について、運営の仕方が各地区まちまちで、こういう組織でやっていくという取り決めがない。地区によっては、センター長が組織の副会長をし、運営をしているところもある。地域ごとの特性に合わせて工夫し、運営している。運営協議会で情報交換をしながら、今までのようにこれからも情報提供し、より良い運営につながるよう努めたいと思う。

(農林課長) 少しでも多くの方に就農していただきたいと願いながら、新規就農者を受け入れるための協議会なども作り、取り組みをしている。なかなか結果に結びついていないが、少しずつでも進めていきたいと思う。

- Q. 計画の中に「連携」とあるが、地区との連携や、周りの市町村との連携が考えられる。蚕桑地区だけではできないことも他地区と連携すればできる。町も、他市町と連携すればできることもある。人を増やさなければならぬが、まずは今住んでいる人が、これからも白鷹町に住みたいという気持ちにならなければならないし、良いところだからここに住んでいるという気持ちで情報発信すれば、UターンやIターンも増えると思う。地元のことを、我々が知り、どう活用するか考え、実行、情報発信していかないと、人は集まらないと思う。山形県全体の発展としてみれば、出来ないことはないと思う。こちらも考えていくので協力をお願いしたい。
- A. (町長) 虚空蔵様を中心とし、畑谷、小滝、中山の3区が、昔から集まって情報交換をしてきた。結果として、虚空蔵様にトイレを作ろうとなり、相当な額はかかったが、国の支援を受けながらバイオマストイレを作った。川下も、大瀬、松程、今平が集まって、昔から情報交換を行っていた。吊り橋もなかったため、渡し船で行き来していた。地域が交流し、広域的につながるにより自分たちの良さを作り上げている。その他にも、桜でいうと、金田先生の講話会に、県全体から樹木屋が集まって交流したり、置賜桜回廊では、遠くから来られる方もいたり、そういう形での広域的な交流の大切さを感じた。馬見ヶ崎の芋煮会もまさしく交流を深めていくという点で、大切なことではないかと思う。
- Q. 蚕桑の道路整備について、11月16日、県主催による説明会があった。そこで、長井大江線について、県として最優先すべき区間であると、力強い言葉をいただいた。町としても同じように考えているのかお聞きしたい。
- A. (町長) 西回り幹線道路整備については、以前から話には出ていた。荒砥橋の架け替えが決定した10年前の段階から、整備を進めようと運動に取り組んできた。長井市と協議会を作ったが、それまでは県にはなかなか応じてもらえなかった。置賜総合開発協議会という組織に、この話を取り上げてもらうのにも時間がかかった。町の県議会議員にも、何度か話をしてもらった。そういった運動の積み重ねが、県を動かしたのではないかと思う。最優先とは到底思えないが、一つのテーブルに着いたのは間違いなく、素晴らしい前進だと思う。ただ、道路をつくるとなった時、最上川の堤防が決壊した場合、田尻の低いところはどうするのか。平成25年に洪水で民家に影響が出た絹市川はどうするのか。東田尻の集落そのものが道路沿いに密集しているのはどうするかといったことも考えてほしいと言った。フラワー長井線の跨線橋に、町の台車がぶつかったことがある。役場の台車以外にも、高さがある車がぶつかっているという話を聞いた。その話もしたところ、定かではないが、確か長井大江線のバイパス的な考え方も含めていきたいとおっしゃっていた。県がどうのこうのより、町が積極的に動いていかなければならない。町の考え方というより、地域の皆さんと一緒にやっていくということ以外は考えられない。立場として先頭に立って頑張っていくので

改めてご協力をお願いしたい。

その他 地区の抱えている課題や、町への要望など

《質疑応答》

Q. 保育料が0歳から無料になるということで、非常にありがたいと感じた。定住施策にも大きく貢献すると思う。町報などで情報発信していると思うが、知らない人もまだいると思うので、それ以外の情報提供の工夫も検討していただきたい。

役場新庁舎に入りづらいイメージがあるので、入りやすくなるような工夫はないか。人口が減っている理由として、白鷹町の住みづらさはどんなところかという意見もくみ取ってほしい。それによって見えてくるものがあるのではないか。町民の意見を吸い上げる仕組みをうまく活用してもらいたい。

資料に、2040年までの目標として10,500人程度に減少を抑えるとあるが、目標出生数70人に対し、亡くなる方はもっと多いと思う。最初のページでは年間約240人減っているとなっているが、考え方としては転入等で外から人を持ってくるということか。

A. (町長) 役場の入りづらさという点では、自分は48歳で退職後、行政書士をしていたが、その時から入りづらさは感じていた。何とか改善させようと今の庁舎にしたが、解消するにはどうすれば良いか逆にお聞きしたい。どこの役所も同じ。入りづらさがあるというのが良いのかもしれない。これから、マイナンバーカードを使った手続きの簡易化など、出来るだけ町民の皆様の負担にならないように検討していきたい。

(企画政策課長) 保育料無償化も含め、県内でも白鷹町は、子育て政策を頑張っているという評価を受けているのかなと思う。それにより、ここで子供を産んで育てていきたいという方、特にUターンの方が増えてくれればありがたい。出生数、社会増減の部分では、政策の中である程度実現できるのではないかと思い、ここに記載した。亡くなる人の数を減らす、町外に出て行く人を減らすと同時に町内に入ってくる人を増やすということを考えたとき、一番効果があるものは何か、一つ一つ考えながら地道にやっていくしかないと思っている。女性一人の生涯出生数が2人未満であることと、そもそも結婚される方が少ないということを少しでもカバーできる施策を計画し、実践できるよう進めていきたい。こういったことをもっと外に発信し、PRしていくことも大事であることに加え、町民の皆様から声を集める仕掛けについても、もっと工夫していく必要があると考えている。

Q. 西横田尻は積雪が多い。除雪や雪下ろしの支援はしていただいているが、以前の総合計画の中に、冬期間に高齢者を対象にした、越冬型住宅という構想があったと思う。どうしても、白鷹町は町外へ出て行ってしまう人が多いので、その越冬型住宅の構想は今どうなっているのかお伺いしたい。

A. (町長) その構想は今も組み込まれているが、管理の問題でなかなかうまく進んでい

ない状況。旧白光園の建物を改築して、国民年金受給額くらいで入れる、有料の老人ホーム的なものを考えたが、なかなか難しい。管理を考えたときに、遠すぎるという問題がある。また、田尻の方に直接訪問した際、今の住居に住みたいという方が大半だった。加えて、買い物が大変という話もあった。昔のように移動販売などがあれば安心できるという声もあったが、ビジネスになってくるので難しい部分ではある。行政の立場では深く入り込めない部分もある。既に山形方面ではやっているので、そこを参考にしながら、なんとか安心して暮らせる環境づくりをしていくために努力していきたい。